

南信州地域の発展方向

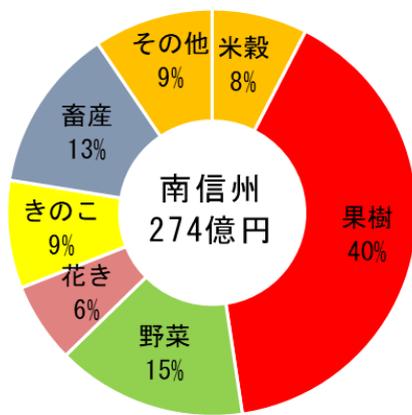
飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

皆でつなぐ 南信州農業の新たな時代

農業・農村の特徴

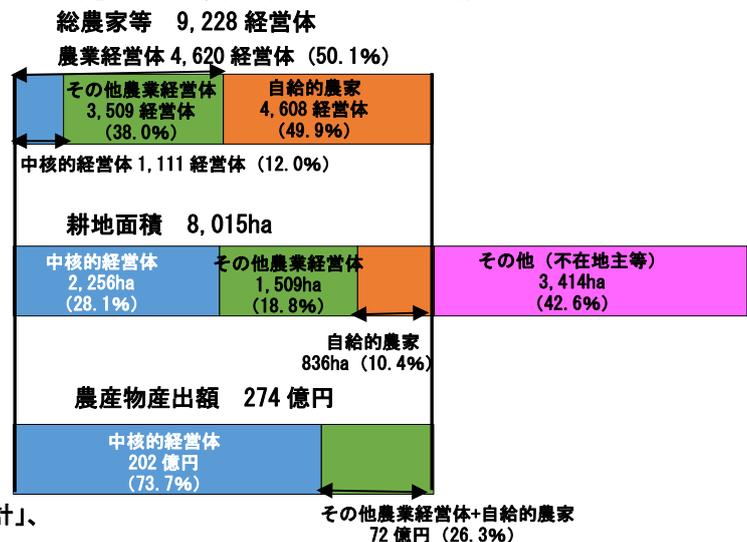
南信州地域は、山間傾斜地が多く1戸当たりの耕地面積が狭いものの、温暖な気候や標高差を生かし、果樹、野菜、花き、きのこ、畜産など、多品目生産による複合経営が展開されています。中でも、農産物産出額の1位を果樹が占め、長野県を代表する果樹産地の一つです。

【2020年】(2020農林業センサスから推計)



農産物産出額【2020年産】

(農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、
「市町村別農業産出額(推計)」2020年を基に推計)



めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる南信州の農業

- 新規就農者、中核的経営体、定年帰農者など多様な担い手により、南信州地域の特性を生かした農業経営が展開されています。
- 円滑な樹園地継承や新品種・新技術の導入により、県内有数の果樹産地が維持・発展しています。
- 地域の特徴を生かした野菜、花き、きのこ、畜産等の多品目生産による安定した複合経営が展開されています。

II しあわせで豊かな暮らしを実現する南信州の農村

- 地域の話合いを通じて地域農業の将来像を明確にし、担い手の確保や適切な農地利用が図られています。
- 地域活動により維持された農村景観が観光利用されるなど、農村の多面的機能が十分に発揮されています。
- 農業水利施設の計画的な改修により生産基盤が持続され、地すべり防止施設の整備・更新により、安全で災害に強い地域づくりが進んでいます。

Ⅲ 魅力あふれる南信州の食

- リニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道開通によるつながり人口の増加を見据えて、南信州らしい「食」を介した交流の促進や「観光＋農業」が一層盛んになっています。
- 食育・農育を通して、子どもたちや家族等へ、地元の「農」や「食」への理解が深まり、地産地消がさらに定着しています。

施策の展開方向

I 皆が憧れ、稼げる南信州の農業

重点取組1 皆が憧れる農業の担い手の確保・育成

農業経営体の減少スピードが加速化し、農業の担い手確保・育成の強化が必要であるため、皆が憧れるような農業の実践を支援します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
新規就農者数(49歳以下)	41人/年	30人/年
Iターン就農者数	8人/年	8人/年

【具体的な施策展開】

- 県、市町村、JAが連携し、地域の特徴を踏まえた就農作戦会議や相談活動による担い手の確保
- 研修事業及び経営発展支援等の充実による地域農業をリードする担い手の育成強化
- 中核的経営体の資質向上及び多様な担い手の支援
- マッチング機会の創出や農福連携等による多様な支え手の確保を推進



【スキルアップセミナー
農業機械講座】

重点取組2 新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり

後継者不足、老朽化園の増加などで産地の維持に懸念が生じていることから、新たな品種への転換、早期多収・省力化技術の拡大等を進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
日本なしの早期多収省力栽培技術導入面積	4.6ha	10ha
担い手への市田柿集積面積 (農地中間管理事業)	5.7ha/年	6ha/年

【具体的な施策展開】

- 日本なし産地再生プロジェクトにより、JA等関係機関と連携し担い手確保、新たな技術の導入及び園地の整備等に取り組み、稼げる産地の再構築を推進
- りんご高密度栽培など省力化・生産性向上の推進と県オリジナル品種の戦略的拡大
- 市田柿の円滑な樹園地継承と「市田柿+α」複合経営の推進
- 「シャインマスカット」や「ナガノパープル」、「クイーンルージュ®」等の無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化



【日本なしの樹体ジョイント仕立て栽培】

重点取組3 南信州らしさを生かした複合産地の構築

多品目複合産地の振興や、南信州に適したスマート農業技術の導入による省力化と生産性の向上、環境への負荷低減、気候変動への対応等を進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
きゅうり・アスパラガス施設面積	36ha	39.5ha
農業用ドローンによる防除面積	21ha	70ha

【具体的な施策展開】

- きゅうり・アスパラガス・白ねぎの生産安定
- ダリア等主力品目花き生産への支援
- きのこのロス率低減による経営安定や異物混入対策の推進
- 南信州牛（信州プレミアム牛肉を含む）・銘柄豚などの生産拡大及び家畜防疫対策の徹底
- スマート農業技術の導入による省力化や生産性向上の推進
- 環境への負荷を低減した有機農業等の環境にやさしい農業の推進
- 気候変動に対応した技術の導入及び経営継続のためのリスク対策の推進



【農業用ドローンによる水稲防除】

Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する南信州の農村

重点取組4 皆でつなぐ豊かな農村

地域の話合いにより、地域農業の将来像を明確化し、守るべき農地の適切な利用及び農業水利施設や地すべり防止施設等の計画的な整備・更新を進めます。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
基幹的な農業水利施設の整備箇所数 (計画期間内整備量)	—	5か所
防災重点農業用ため池の耐震性診断 実施箇所数	9か所	31か所

【具体的な施策展開】

- 地域の話合いにより守るべき農地と担い手を明確化
- 伝統野菜や茶などの豊かな食文化や栽培技術の継承を支援
- 集落機能を維持するため、野生鳥獣被害対策などを支援
- 農村の多面的機能の維持と活用促進
- 水路など農業用施設の長寿命化、農村地域における防災対策の推進



【補修が必要な水路トンネル】

Ⅲ 魅力あふれる南信州の食

重点取組5 リニア新時代 世界に通用する農村交流の体制構築

リニア中央新幹線開業と三遠南信自動車道開通により交流の拡大が見込まれ、市田柿、伝統野菜など地域食材を介した交流の促進に向けた受入体制の構築を図ります。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
都市農村交流人口	38,882人	200,000人

【具体的な施策展開】

- つながり人口増加を見据えた農産物直売所の支援、「観光＋農業」の推進
- 伝統野菜、南信州牛など地域食材等を取り入れた「食」を介した交流の促進
- 食品企業等との連携による地域農畜産物の活用を促進
- 市田柿における地理的表示（G I）保護制度の活用や地域農産物の生産工程管理支援による海外でのブランド強化と輸出促進



【農家とシェフの情報交換】

重点取組6 農や食への理解醸成

学校給食等を通じた食育、農育を一層推進し、地域食材や環境にやさしい農産物への理解を深めることにより、地産地消などエシカル消費を促進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
学校給食における県産食材の利用割合 (品目ベース)	53%	55%
学校と連携した地域農産物に係る情報提供の回数	—	6回/年

【具体的な施策展開】

- 農業体験会の開催など教育現場や飲食店関係者等との協働による食育・農育の強化
- エシカル消費を推進するため、地域農畜産物などの利用を促進
- 市田柿など地域農畜産物の魅力発信



【大豆「つぶほまれ」栽培による食育活動】